



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692(住所記入不要)
☎0276-88-5511(代表)
☎0276-47-5007(企画課直通)
☎0276-89-0136
https://www.town.ora.gunma.jp
✉kohos@wan.town.ora.gunma.jp

おうちお知らせメール
配信を希望する人は、右のQRコード
から、ご登録をお願いします。
☎http://cc9.easypocket.jp/(R-1777+PC)
☎http://cc9.easypocket.jp/k/(携帯電話)



(R-1777+PC)



(携帯電話)

〈第九十二回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



篠塚地内にある長柄神社。出雲神話の事代主命(ことしろぬしのみこと)を祭っていて、境内には町の天然記念物「エドヒガン」の桜が咲く

長柄はなぜ「ながえ」と読むのか

明治21年(1888)に町村制が公布され、平成の大合併のような町村合併が行われた。中野村、鶉村、鶉新田、光善寺村が合併して中野村となり、藤川村、秋妻村、石打村が合併して高島村となり、篠塚村、狸塚村、赤堀村が合併して長柄村となった。

高島村としたのは、むかし高島郷に属し、その名残の高島原という地名から命名したという。また、長柄村としたのは古くから長柄神社を守護神とし、鎮守とすることから長柄(ながら)村と読むことにしたが、ここで問題が生じた。

それは、隣の現千代田町でも赤岩村の一部、福島村、舞木村、鍋谷村、新福寺村、瀬戸井村の一部が合併し永楽(ながら)村と読ませたことにある。

隣村同士で読みが同じでは混乱が生ずるので、時の郡長の英断により長柄村は「ながえむら」と、永楽村は「えいらくむら」と命名したそうである。

現在、長柄村の名残は、長柄小学校、長柄幼稚園、長柄公民館や長柄郵便局として現存している。

十三軒の由来

その昔、集落の南面を東西に走る旧道

の通りに面して名主の大きなかやぶきの家がありました。この家の間口は13間約23メートルもあって、村一番の大きな家だったそうです。名主であるこの家の当主を誰となく畏敬の念を込めて「十三軒」と呼ぶようになり、時代が流れてもこの名主の家はもちろん、名主の影響力の及んだであろう集落を含めて「十三軒」と呼ぶようになりました。遅くとも江戸時代後期には村人に何の違和感もなく受け入れられていたでしょう。

長い間親しみのある呼称は大正6年以前までは地名としての表記こそ無いが、その後は行政区地名として確固たる地位を確立し、現在に引き継がれています。

もう一つの伝承としては、文字通りの十三軒をずばり文章理解したいわば集落の戸数そのものが、ある時代に13軒(戸)存在したがゆえに、単純明快そのもので家の軒数にあやかって「十三軒」とした伝承として語り継がれています。

どちらが正当性をもって地名となったかは明らかではありません。もちろんそれぞれの伝承についても結論づけるのは、研究の余地があると思われませんが、現在の段階では他に決定づける資料等が無いので、これまでの伝承を重要な手掛かりとして頼りにするしかないことも事実ですので申し添えます。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成28年3月31日発行「邑楽町の地名(第十一集)あすへひとこと」)より一部抜粋



天に向かって
(おうら中央公園)



Photo 松村光明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶3月30日にトンガ王国のホスタウンと共生社会ホスタウンに登録決定されました(関連8・9ページ)。約4カ月後に迫った東京2020パラリンピック大会。大会後にはトンガ王国のパラリンピック選手たちとの交流が予定されています。詳細は今後お知らせしますのでお楽しみに。広報おうらも忙しくなりそうです。▶東京2020大会関連をもう一つ。同日、聖火リレーの撮影のため広報おうらの「K・Kコンビ」と共に隣町へ。聖火リレーを撮影できるなんて一生に一度のこと。早めに現着し大野七海さんが走る区間を入念に下見し、各自スタンバイ。聖火とともに盛り上がる空気感と緊張感。撮影時間は一瞬でしたが、とても貴重な経験ができました。そんな私も実はKです。(小室)